

RAFIQ

2021 年度活動報告

1. 法的支援（難民認定申請手続き支援）総括

昨年から軍事クーデター等で政情の不安定な国が増え、今年2月ロシアのウクライナに侵攻後は、紛争や迫害等の人道危機により故郷を追われた人が1億人を超えた。（UNHCR 発表）

コロナ禍で入国制限が続き、大阪入管への面会は毎月予定していたが、今年1月からは面会対象がいない状態が続いている。

しかし、昨年に続きコロナ以前に難民認定申請を行っている人に「不認定」や「審査請求の棄却」の通知が来るようになり大多数の相談はこのような人たちである。在留期限が迫っている人も多く、緊急に再申請や訴訟を起こす必要があった。このような人たちは就労出来ていたが就労不可になり、生活支援も必要であった。難民関係の訴訟は5人に増え毎月裁判や弁護士との打ち合わせが入っているが、弁護士と法的支援メンバーがチームになり支援を行うことができるようになった。

毎回の裁判には、傍聴者を募集しコロナ禍でも傍聴席を埋めることで裁判官に市民の関心を示すことが出来た。

再申請者は在留が不許可になり収容になったが、コロナ禍のため「即日仮放免」になり実際に収容される人はいなかった。

新たな支援として、就労可能な在留資格への変更と帰化申請のサポートを行った。

2. 生活支援 総括

コロナ禍で入管からの新規仮放免者がいなかったが、就労可能だった人が「審査請求の棄却」により就労不可になっていった。このような人が半年から1年後には貯金もなくなり、生活支援が必要となった。RHQ(アジア福祉教育財団難民事業本部)への保護費申請の前に家賃が払えなくなり家賃補助等を行った。

RHQの保護費を受給していた人は審査請求が棄却されたその日から受給がストップする。再受給を申請するためには「難民不認定取消訴訟」(不認定後6か月以内)が必要で、訴訟の準備をするまで数か月の生活支援を行った。

RAFIQが加盟しているなんみんフォーラム(FRJ)を通じて、一名の住居を確保することが出来た。

なんみんハウスのシェルター利用者はいなかった。

引き続きコロナの感染予防等のために生活費が増えることに対応した施策として、毎月1回感染防止用品や支援物資を宅急便で送ることができた。ワクチン接種については、希望する方に接種券取得や予約・同行などの支援を行った。日用品等の支援は、フードバンクの食料を取りに来た時や、法的支援の面談の時にも渡すようにした。

3. 市民啓発 総括

コロナ禍でイベント等は基本的にオンラインで開催した。

難民初級講座を特別講座も含めてオンラインで13回開催し、出前講座は13回で大学高校以外にも増えた。

6月の「世界難民の集会」（2006年より企画）は、今年はFRJに呼び掛けFRJ主催で開催し、より多くの参加があった。

コロナ禍に入りオンラインやSNSでの発信を強化している。

難民移民問題に関わる最新新聞記事や他団体を含めた講演会告知、書籍・映画情報など様々なトピックスを広範囲にシェアすることができた。

マスク等での取材や寄稿の依頼が増えた。映画「ワタシタチハニンゲンダ」への協力も行った。

資料室に難民問題理解のための資料を収集し、閲覧できるようにしている。「まちライブラリー」に参加しているが、コロナ禍で訪問する人が少なく活用が少なかった。

4. 政策提言・研究・研修・ネットワーク 総括

昨年5月に「出入国管理及び難民認定法」（入管法）改正は廃案になったが、引き続き再提出の動きがあり注視した。クーデターや紛争国の難民認定申請者への緊急支援や保護に向けてFRJと協力して取り組んだ。

新しく出来たFRJの「政策提言」PTメンバーとして各団体と協力しながら人道的な難民保護法制定に向けた取り組みを進めた。

難民・入管関係の研修等を会員に紹介し共に問題を共有できるようにした。

5. 組織運営・会員拡大 総括

<会員・ボランティアの拡大について>

会員数が108名に増えた。難民初級講座受講後又は数か月のボランティア体験後の会員申し込みが多かった。体験としてのリアルイベントが少なくなった

が、裁判が増え傍聴と裁判後の説明会に参加することで RAFIQ の活動を感じてくれているようである。

<会員・ボランティアの活動への参加について>

会員には会報代わりにメールマガジンを毎月下旬に配信している。また毎月初めには会員とボランティアに2か月分の予定を送っている。

RAFIQ の活動内容が伝わるように写真なども入れて報告するようにした。また会員のレベルアップのために学習会を開催した。

翻訳などボランティアの内容を具体的に伝え参加者を募集することで、主要な活動に参加する会員は増えて様々な活動を支えることができた

事務所当番・法的支援メンバーが日常的に活動を支えてくれた。

<事務所「OSAKA なんみんハウスの運営」>

事務所については、保有している支援者のご好意で、家賃、固定資産税、火災保険、地震保険、水害保険を支払っていただいている。

コロナの感染防止策に留意し事務所を開所出来た。基本的に平日の10時から3時まで毎日開所が出来た。

<運営委員会・事務局>

運営委員会は、月1回、オンラインで開催をし、RAFIQ の活動の検討を行った。

事務局は昨年より2名の体制で分担を行い、様々な支援を行うことが出来た。

<法人化に向けて>

2022年1月から「法人化プロジェクト会議」を月1回程度開催し、準備を進め設立総会の開催に至ることが出来た。

2021 年総括 資料

1. 法的支援

支援難民 28 名+子ども 3 名 新規支援者 3 名

相談件数 14 件 +アフガニスタン本国から 8 件

(アフガニスタン、ウクライナ、チュニジア 2、ソマリア、ナイジェリア、ビルマ、ベトナム、カメルーン、スーダン、モロッコ)

大阪入管への面会 3 回 (1 月まで) 面会希望者 1 名

難民認定 在留特別許可 なし

仮放免 3 名 (全員が審査請求を棄却された為、コロナの為に実際には収容なし)

裁判 5 ケース 8 件 「難民不認定取消訴訟」4 件、「在留特別許可不許可取消訴訟」1 件、「退去強制令書取消訴訟」1 件、「在留期間更新不許可取消訴訟」1 件「口頭審理不実施取消訴訟」1 件

2. 生活支援

シェルター支援 0 名

新規住居支援 1 名

支援物資 13 件 (25 名)

生活支援 家賃 光熱費 その他 5 名

医療支援 2 名

3. 市民啓発

イベント関連>

2021/9 月 出前講座 大阪府立藤井寺高校

出前講座 K・K「LIFULL」

11 月 出前講座 龍谷大学

23 日 RAFIQ セミナー

「国際人権法から見た日本の難民問題～難民とあなたの人権を考えよう～」

12 月 出前講座 きのくに国際高等専修学校

2022/1 月 出前講座 大阪府立寝屋川高校

2 月 出前講座 大阪司法修習生研修

12 日 大阪弁護士会主催「人権フェスタ」に動画協力

3 月 5 日 RAFIQ 活動報告会

- 4月 10日 アフガン支援ラーラ会のアフガニスタンを知る勉強会に協力
出前講座 同志社大学
- 5月 4日 高槻ジャズストリート 「社会貢献のひろば」に出展
20日 入管問題学習会「入管ってどんなところ」
特別報告：都留文科大学非常勤講師 呉泰成氏
出前講座 関西 NGO 協議会の総会でのプレゼン
- 6月 出前講座 大阪公立大学
18日～7月1日 ウォーキングイベント「PEACE WALK」参加
24日 「世界難民の日」イベント「日本の難民支援の現場から-ウクライナ難民の受け入れを機に考える、一人ひとりにできること-」に協力
主催 FRJ
- 7月 出前講座 多文化研修会
出前講座 大阪大谷大学
出前講座 近畿弁護士会
- 8月 出前講座 CODE (海外災害援助市民センター)
21日 関西 NGO 協議会「Summer SGDs Festival for Youth」に出展
24日 会員向け「スキルアップ講座」

定例企画

- ・毎月第2土曜日 初級難民講座「難民についてもっと知りたい」&ボランティア説明会オンライン開催 13回 74名参加
- ・毎月第3火曜日 難民カフェ オンライン開催
※カフェ「サロン・ド・アマント天人」での参加も可とした。

WEBでの情報発信>

- ホームページ 随時更新
- Twitter 随時 フォロワー1,777人 (2022年11月20日現在)
- Facebook 随時 1,289人 (フォロワー 686人、いいね! 603人)
(2022年8月末現在)
- メルマガ 毎月1回発行 (8月を除く) 453名に配信
(2022年7月号)

報道＞

2021年

6月2日 NHK「ほっと関西」でアフガン難民について報道

2022年

8月1日 読売新聞ボランティア欄に「初級講座とボランティア説明会」掲載

5月26日 KBS ラジオ「笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ」

寄稿＞

八尾市人権協会

部落解放共闘大阪府民会議

4. 政策提言・ネットワーク

・なんみんフォーラム（FRJ）の保護費PT・収容代替PTに参加

・賛同

2021年9月 「避難を求めるアフガニスタン受け入れに関する」要望書

2022年3月 「在留資格「家族滞在」で日本の大学等に進学する生徒たちも日本学生支援機構の奨学金申請対象に加えてください。」文科省への申し入れ

・協力

難民支援協会「難民の報道に関するガイドブック」

「大阪における多文化共生の実践に関する調査研究」

難民・難民申請者及び無国籍者に関する調査・研究

「難民支援の実践に関する調査研究」

RAFIQ 2021年度 会計報告

①収入の部

区分	項目	金額	主な内訳	
1	昨年度繰越金	—	3,173,720	現金、商品券を含む
2	受取会費	—	295,414	計108名（一般95名、学生13名）
3	事業収入	受講料等	229,618	初級講座、出前講座の謝礼金、受取利息
	売上	61,477	RAFIQ発行冊子の売上、グッズ・イベント売上	
	雑収益	370,248	弁護士通訳料、原稿料など	
4	寄付金	個人・団体	959,761	—
	法人	850,000	リタワークス・コングラント主催 チャリティウォーク	
5	受取利息	—	27	—
		小計	¥5,940,265	

②支出の部

区分	項目	金額	主な内訳	
1	事務所運営費	水道光熱費	179,731	電気・水道・ガス・電話料金
	修繕費	18,128	なんみんハウス2階床修繕	
	消耗品	72,697	事務所用日用品・文房具、コロナ対策用品	
	図書費	21,759	難民・移民関連書籍の購入費	
	印刷費	160	書類コピー代	
	保険料	12,000	ボランティア保険料	
2	難民支援費	生活支援費	1,765,128	生活費、医療費、食品・生活用品の支給など
	保証金	80,000	仮放免保証金	
	会議費	20,520	裁判後説明会会場費	
	租税公課	5,540	証明書発行手数料、収入印紙	
	雑費	920	証明写真撮影料（難民申請用）、コピー代	
3	広報啓発費	広告宣伝費	125,000	WEB作成費、HP更新費、イベントブース出展料
	諸謝金	50,000	セミナー講師謝礼金	
	消耗品	12,256	イベント出展用品	
4	旅費交通費	—	379,204	出前講座、入管收容者面会、会議・セミナー出席など
5	通信運搬費	—	283,866	郵送費、レンタルサーバー費など
6	諸会費	—	40,000	会費（関西NGO協議会、FRJ）
7	雑費	—	53,440	銀行振込手数料など
		小計	¥3,120,349	

	合計
収入	¥5,940,265
支出	¥3,120,349
次年度繰越金	¥2,819,916

預金: ¥2,773,892 現金・商品券: ¥46,024

2022年10月29日

会計

麻下 希理奈

会計監査

濱口 公子

会計監査

松田 菜緒